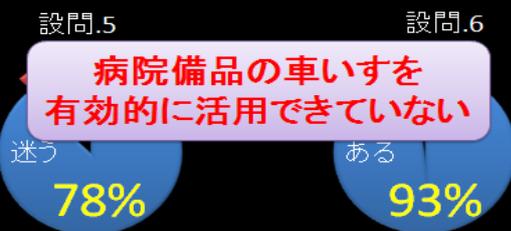


現状把握①ー2

アンケート結果

◆配布 119枚 ◆回収 108枚(回収率91%)



目標設定

スタンダード型車いすの選定マニュアルを作成し、
「車いす選びに迷う78%」
「患者さんの身体に合っていない93%」
 と思う職員の割合を

半数以下 にする

対策立案

対策項目	なぜ	何を	いつ	どこで	誰が	どうする
① 車いすのサイズがわからない	車いすのサイズをわかりやすくするため	車いすの座高・座幅を	10月上旬	各病棟および中央管理室で	TQMメンバー	車いすに分類を貼付する
② 患者さんの体格が様々である	体格に合った車いすを選ぶために	身長・体重を	10月上旬	TQM会議で	TQMメンバー	分類し、基準表を作成する
③ 車いすの選び方がわからない	選びやすくするために	車いす早見表を	12月	TQM会議で	TQMメンバー	車いす早見表を作成する
④ 選定方法が周知されていない	周知してもらうために	車いす選定方法を	12月下旬	各病棟で	TQMメンバー	書面化し、各病棟に伝達する
⑤ 車いす情報が少ない	選びやすくするために	車いすサイズの情報を	1月上旬	HAPLE	IT総務担当者	システムを作る

対策実施①ー2

◆スタンダード型車いすのサイズを表記した印を貼付



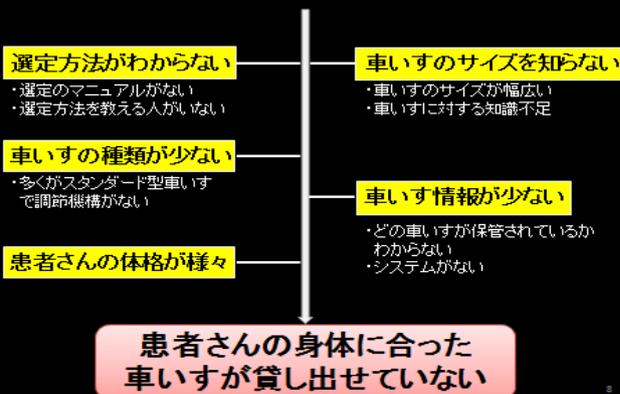
現状把握②

当院にあるスタンダード型車いすの座高・座幅を計測する。

- ◆期間:8月~12月下旬
- ◆対象:当院にある病院備品の全てのスタンダード型車いす
- ◆方法:QCメンバーが、座高と座幅を車いすメジャーを用いて計測した。



要因解析



対策実施①ー1

◆スタンダード型車いすの選び方の基準を作成

【基準1】

スタンダード型車いすの座高・座幅を計測し、①小型②大型に分類しました。

座高	座幅
①小型: 座高36~42cm	①小型: 座幅33~40cm
②大型: 座高43~49cm	②大型: 座幅40.5~47cm

【基準2】

基準1に併せて、身長・体重を①小柄②大柄に分類しました。

身長	体重
①小柄: 150cm未満	①小柄: 50kg未満
②大柄: 150cm以上	②大柄: 50kg以上

対策実施①ー3

◆スタンダード型車いす選定における早見表を作成

		座幅	
		小型	大型
座高面	小型	小・小 150cm未満・50kg未満	小・大 150cm未満・50kg以上
	大型	大・小 150cm以上・50kg未満	大・大 150cm以上・50kg以上

効果確認

アンケート実施

- ◆ 期間
 - ◆ 対象
 - ◆ 目的: 病院車いすの選定方法の
- 2013年度、事務・リハビリTQM活動のアンケートに
ご協力をお願い致します。
※当「アンケート」に関するお問い合わせは、0157-997-9079にまでお願いいたします。TQM部
事務局にて受付いたします。
- 設問1. 車いすにサイズを表記した印を貼付しているのはご存知ですか。
- 設問2. 車いすを選ぶ際に迷うことは少なくなりましたか。
- 設問3. 患者さんの車いす姿勢を見て、身体に合っていないと感じたことは少なくなりましたか。

結果②

- ◆ 無形効果として
病院備品である車いすに対して、事務・リハビリが協同して取り組んだことで、チームの和ができた。また、車いす選定方法を試案したことで、QCメンバーの車いすに対する知識・問題意識向上に繋がった。
- ◆ 波及効果として
車いす選定に向けての取り組みやアンケートを職員に行ったことで、患者さんが以前から使用している車いすについても関心が高まり、身体に合った車いすの提供が重要であることを職員全体で再認識することに繋がった。

今後の課題

- ◆ 今後はHAPLEで、車いすサイズの情報が確認できるよう、システムを作り、車いすを選びやすい環境を目指す。
- ◆ 対策の実施期間が短期間であったため、今後も車いすに関わる職員の意見を反映させながら、車いすの選び方を定着させる。また、スタンダード型車いす以外の車いすにおいても、選び方の基準を作成していきたい。

結果①

アンケート結果

- ◆ 配布 110枚



標準化と管理の定着

なぜ	何を	何の為に	いつ	どこで	誰が	どの様に する
管理	車いすの座高・座幅の計測を	選定がスムーズに行えるため	新規購入時	中央管理室で	総務担当者	サイズ表記を貼付する
管理	車いすの情報を	車いすのサイズを周知するために	新規購入時	HAPLEで	総務担当者	情報入力を行う
教育	選定方法を	理解してもらうために	3ヶ月に1回	院内で	TQMメンバー	勉強会を実施する

ご清聴ありがとうございました。